

理系特進クラスのクラス経営について

3年2組担任 塚田 浩幸

1 はじめに

今から2年前の平成30年4月、本校に赴任して8年目を迎えた私は、理系特進クラスの担任をやらせていただくことになりました。最初の一回目目は進学クラス、二回目目はスポーツ科学コースの担任をしたということもあり、三回目目の担任は、やったことのない特進クラスの担任をやりたいと考えていました。1年次では進学クラスの担任をしましたが、2年次に進むクラス替えの際に、学年主任の小林先生に希望を伝え、私のわがままを受け入れていただく形となったのです。7年間、外から特進クラスの様子を見て、良い部分、改善すべき部分などを感じていたため、それを平成29年度入学生のクラス運営に生かしたいと思っていました。今回、原稿を書く機会をいただきましたので、理系特進クラスでの取り組みを振り返ってみたいと思います。

2 クラス編成の方針

本校では、1年次は普通科4クラス、普通科スポーツ科学コース1クラスの計5クラス編成です。その中で、普通科4クラスの内1クラスを特進クラスとしていますが、こちらは入学時に特進クラスを希望した生徒を、文系理系に関係なく優先的に入れています。その時点では全員が大学・短大に進学を希望しています。純粋に特進クラスと言えるでしょう。指導をする上では、全員に大学進学を意識した指導をしていくことが可能です。では、2年次ではどのようにクラス編成をするのかというと、文系特進クラスを1クラス、理系特進クラスを1クラス、進学クラスを2クラス、スポーツ科学コース1クラスという編成になります。大学・短大への進学を希望する者を文系理系に分け、就職や専門学校への進学を視野に入れている者を進学クラスに入れるというのが基本的な考えです。しかし、1年次途中の予備調査によると、この学年の生徒は文系の大学・短大希望者が60名と圧倒的に多く、理系の大学希望は30名でした。これだけ人数に偏りが出ると、適正なクラス編成ができなくなります。そこで、理系特進クラスの条件として、「看護専門学校の公募推薦・一般受験を希望する生徒は自然科学系特進クラスを希望する」という一文を加えることにしました。最終的には、理系の大学希望者と看護医療系専門学校希望者を合わせた計36名で特進理系クラスをスタートさせることになりました。

文理選択 2年次選択科目一覧 (予備調査集計表)

1 希望する系

①人大国保系(通学)
②人大国保系(特進)
③自然科系(特進)
④スポーツ科学コース

人数
21
23
40
40
124

2 高校卒業後の進路

①国公立4年制大学大系
②国公立4年制大学理系
③私立大学大系
④私立大学理系
⑤国公立短期大学大系
⑥国公立短期大学理系
⑦私立短期大学大系
⑧私立短期大学理系
⑨専門学校(看護医療系以外)
⑩専門学校(看護医療系以外)
⑪就職(公務員)
⑫就職(民間企業)
⑬留学(?)
⑭その他(?)
⑮未定

理系	文系	合計
25	2	33
12	4	
23	2	
11	0	
2	0	14
0	2	
3	0	
0	1	
10	1	42
22	3	
0	3	12
13	0	
1	0	1
1	4	5
23	12	35
125	40	165

(平成29年10月実施)

平成 29 年度入学生 新2年生クラス編成基本方針

2017.10.31

1 普通科の類型について

(1) 人文国際系

- ① 3クラス（特別進学クラス1クラス、進学クラス2クラス設置）
 - ② 将来、文学部・経済学部・法学部・教育学部・国際関係学部等文系大学及び短大への進学を目指す生徒のためのカリキュラム
 - ③ 就職試験・専門学校進学にも対応する（進学クラス）。
 - ④ 特色
 - (あ) 国語、社会、英語の文系科目に重点をおいたカリキュラム。
 - (い) 多様な選択科目から自己の特性に応じて学習し、様々な価値観・文化等を受容する態度を養う。
 - 2年次・・・☆中国語探究、☆韓国語探究、異文化理解、※★プレゼンテーション、※☆生活と福祉、現代社会
 - 3年次・・・日本史探究、地理探究、政治経済探究、☆中国語探究、☆韓国語探究、英語探究
 - ※生涯スポーツ、※★プレゼンテーション、※☆生活と福祉
- ※特別進学クラスは選択不可 ☆2、3年継続履修 ★2、3年継続履修不可

A 特別進学クラス 1クラス設置

- ① 文系国公立大学、文系中堅私立大学（偏差値50以上）の大学進学を目指す。
- ② 課外授業・進路企画行事（外部模試・センター試験等）への参加を原則とする。
（部活動・校外でのボランティア等への活動参加者には配慮する）

B 進学クラス 2クラス設置

- ① 全ての進路希望〔文系私立大学、私立短期大学、専門学校、就職（公務員を含む）〕の現役合格をめざす。
- ② 均等な2クラスを設置する。
- ③ 学習および進路希望実現のための取り組みと部活動の両立を図る。
- ④ 学習面では基礎的な部分の理解と定着を重視する。

(2) 自然科学系（特別進学クラス） 1クラス設置

- ① 理系大学（理学部・工学部・農学部・薬学部）及び看護医療系大学（看護・理学療法・作業療法等）への進学を目指す。
- ② 発展的な学習を重視するが、習熟度によっては基礎的な部分の理解と定着に配慮する。
- ③ 課外授業・進路企画行事（外部模試・センター試験等）への参加を原則とする。
（部活動・校外でのボランティア等への活動参加者には配慮する）

※ 専門学校への入学希望者は人文国際系進学クラスへ。

ただし、看護専門学校の公募推薦・一般受験を希望する生徒は自然科学系特進クラスを希望すること。〔例：茨城県立中央看護専門学校、茨城県立つくば看護専門学校 等〕

〔特色〕

- (1) 理数科目に重点をおいたカリキュラムとなる。
- (2) 科学的な考え方を養い、情報化社会に対応できる力を育む。

(3) 3つの学校設定科目が選択できる。

○数学演習Ⅰ

○数学演習Ⅱ

○数学演習Ⅲ

※いずれも3年次

(3) スポーツ科学コース 1クラス設置 2・3年生のクラス分けはありません

■スポーツを科学した新しいタイプのスポーツ指導者の育成をめざす

■全ての進路希望〔4年制大学、短期大学、専門学校、就職（公務員を含む）〕の現役合格をめざす。

※ 教育課程上、理系進学は制限がある。

■基礎的な部分を丁寧に説明することを重視する。

※ 大学・短大希望者は進路企画行事（外部模試等）への参加を原則とする。

※ 大学・短大希望者は3年次部活動引退後、速やかに課外に参加すること

〔特色〕 (1) スポーツ理論を学ぶ授業「スポーツ概論」の履修

(2) 地元大学からの出前授業・短期講習

「体幹トレーニング」・「コンディショニングトレーニング」・「スポーツマネジメント」・「コーチングスキル」・「スポーツ栄養学」等

(3) 専門科目 スポーツⅤ〔 スキー実習（1・2年）アイススケート実習（3年）〕

(4) 地域に根ざした教育の実践 中学校との合同練習・練習試合

(5) 選択科目（2単位）

2年次・・・生活と福祉（2・3年継続）、プレゼンテーション（2年・3年単年度）、現代社会

3年次・・・生活と福祉（2・3年継続）、プレゼンテーション（2年・3年単年度）、政治経済探究

(6) 専門科目（1単位 1～3年 部活動と運動）

○スポーツⅠ（1単位 体操・陸上）

○スポーツⅡ（1単位 球技）

○スポーツⅢ（1単位 武道）

2 クラス分けの方法について

(1) クラス編成のための資料

① 希望調査票 希望する系、進路希望 等

② 教科成績 定期テスト（1学期中間・期末、2学期中間・期末） 9月実力テスト
進研模試7月・11月

③ 課外（平常・土曜）学習等の参加状況

④ 生活状況（欠席・遅刻・早退・生徒指導状況）

⑤ 提出物等の提出状況

(2) 特別進学クラスの条件

① 4年制大学等へ現役で合格するために努力を惜しまず、クラスの学習環境の向上に協力できること。また、安易に進路希望を変更せず、最後まで4年制大学等合格をめざすこと。

② 平常課外・土曜課外に参加すること（部活動・校外でのボランティア等への活動参加者には配慮する）。

③ 全員が受験する校外模試（進研3回）以外にも学校が薦める校外模試や検定試験等を積極的に受験すること。

④ 進路指導部・学年で企画した学力向上、進路学習の取り組みには最優先で参加すること。

3 推薦会議における優位性

(1) 特進クラスの優位性

進学クラスの生徒と、同一大学の学部学科を志望し、大きな差がない場合は、特進クラス生徒を優先する。

(2) 進学クラスの課外受講者優位性

進学クラス内で同一大学の学部学科を志望し、同一得点だった場合は、課外受講者を優先する

(3) 普通科の生徒とスポーツ科学コースの生徒との競合

普通科の生徒とスポーツ科学コースの生徒とが競合した場合は、総合的に判断する。

4 注意事項

- (1) 将来の職業や人生設計を判断材料とし、決して友人関係や現在の得意科目・不得意科目で決めないこと。
- (2) 人文国際系特別進学クラス・自然科学系クラスともに、最低35名程度の人数が集まらない場合は、クラス編成に変更がある場合もある。
- (3) 人文国際系の特別進学クラスにおいて、独自の教材を使用する際には、進学クラスの生徒にも呼びかけて希望者には同じ教材を配付する。
- (4) 生徒・保護者間の話し合いを十分にもち、12月の面談で担任ともよく相談の上で、生徒の希望を尊重して決めること。
- (5) 3年生のクラス分けについて
 - ① 人文国際系特別進学クラス(1)・人文国際系進学クラス(2)の中でクラス分けを行う。
(原則、進路が変更になった生徒が対象である。学業成績も加味する。)
 - ② 自然科学系から人文国際系への変更は原則認めない。
 - ③ 人文国際系から自然科学系への変更はできない。
- (6) 4年制大学及び短大希望者はA O・推薦・一般入試を問わず全員大学入試センター試験を受験すること。

5 類型分けの予定

10月25日(水)	生徒説明会 ※選択科目の詳細説明は各教科
10月31日(火)	保護者説明会
11月10日(金)	第1回類型分け希望調査票提出(必;保護者押印)
11月下旬~12月上旬	生徒面談
12月8日(金)	第2回類型分け希望調査票提出(必;保護者押印) (変更者のみ)
12月18日(月)~21日(木)	保護者面談 希望の最終確認
1月12日(金)	最終類型分け希望調査票提出(必;保護者押印) (変更者のみ)
4月6日(金)	平成30年度始業式 新クラス発表

3 2年次での取り組み

理系特進クラスを受け持つにあたって、まず行ったことは個別面談です。校内で面談週間が設けられていましたが、その期間に拘らず、時間をかけて行いました。特進クラスの基本方針、

私の担任としての考えを理解してもらうまで、しっかりと話をしました。その中でも特に力を入れたのが、課外授業についてです。私の見る範囲ですが、今までの特進クラスにおける課外授業への参加状況は、決して良いものではありませんでした。私は、特進クラスと進学クラスの大きな違いの一つは課外授業だと思っています。その課外授業に、気まぐれで参加したりしなかったりでは、特進クラスに所属している意味は半減してしまいます。自分で課題を見つけ、意欲的に学ぶことができるのであれば問題はないと思いますが、残念ながら大部分の生徒が受け身でしか学習することができない状況でした。特進クラスの条件として、「平常課外・土曜課外に参加すること（部活動・校外でのボランティア等への活動参加者には配慮する）。」とあることもあります。強制的にでも学習する機会を与えることが学力向上の第一歩だと考えたのです。何か用事があってどうしても参加できない時は必ず連絡をさせ、もし無断で欠席した場合は厳しく指導し、クラスの中で、課外授業に参加することは当たり前であるという雰囲気を作っていました。

次に行ったことは、志望校の設定です。この時点では現実的なものではなく、行きたい大学や専門学校を志望校に挙げさせました。レベルの高い学校から低い学校に変更することはできても、低い学校から高い学校への変更は現実的に厳しいと考えたからです。すると、クラスの大学希望者 20 名中 12 名が茨城大学を志望校に設定してきました。看護医療系希望者 16 名中 6 名が大学の看護学部もしくは公立の看護専門学校を志望校にあげました。生徒には、目標を高く掲げたからには覚悟を持って準備をしていく必要があることを話し、具体的に何をしていくべきかを伝えました。例えば茨城大学に関してですが、私が赴任してきた平成 23 年度から、茨城大学には毎年複数名の推薦入試での合格者を出してきました。しかし、最近は推薦入試で英語を重視するようになり、合格者がなかなか出にくい状況になっていました。農学部では英検 2 級が受験資格になっており、工学部では英検等の外部英語試験のスコアが推薦入試で点数化されることになっていました。英語の苦手な生徒が多い本校においては、この英語重視の方針がネックになっていると考えたのです。そこで、茨城大学を希望する生徒には英検を受験するよう指導しました。授業だけでなく、英検合格に向けて学習することで、英語の基礎学力向上につなげてほしいと考えていました。結果的には、ある程度の目安である英検準 2 級以上に合格したのは 2 名だけでしたが・・・。

また、本校の生徒の学力レベルでは、偏差値 50 以上の中堅大学に一般入試で合格するのは難しいと考え、推薦入試で中堅大学に合格することを視野に入れ、準備をさせました。過去の特進クラスの中には、安易に推薦入試に行かせず、しっかり勉強させて一般入試で勝負させるという方針のクラスもありました。潜在能力のある生徒が揃っている場合はそれでもいいかと思いますが、そこまでではない場合は、教員の単なる自己満足になってしまいます。それだけは絶対に避けなければならないと思っていました。目の前にいる生徒の力を冷静に見極め、その生徒たちが最大限に力を発揮して、最良の結果を出すにはどうしたらよいのかを考えていきました。これは一回り目の担任をしたときの反省からくるものです。当時は、成績の良い者には一般入試でチャレンジさせるという流れがありました。私もその流れに従い、茨城高専の編入試験を受けさせ、そして茨城大学の一般入試をチャレンジさせた生徒がいました。結果は全て不合格でした。その生徒は結局、専門学校に進学していきました。評定平均が 4.8 もある生徒だったので、もっと良い方向に導くことができたのではないかと今でも後悔をしています。そのような反省から、推薦入試が「悪」なのではなく、あくまでも大学に入学するための一つの方法として捉えていきました。当然、推薦入試のデメリットである、合格後の学習状況であったり、基礎学力の定着・向上に関しては対策をしていくつもりでした。

そういうわけで、日々の授業や課外授業、英検などの資格に取り組ませて学力向上を図る一方で、推薦入試で合格するために、勉強以外の何かに一生懸命に取り組んでいくように伝えました。生徒たちは色々なボランティアに取り組んだり、大学の公開講座に参加したり、病院での看護体験をしたりと、様々な活動をしてくれました。10回以上ボランティア活動に参加した生徒も数名いました。また、引込み思案で表に出ることが苦手だった生徒が、生徒会役員に立候補したりもしました。「面接試験で自信をもって話せるための材料作りは、2年生の時にやっておかないと後で苦労するよ」と話しはしましたが、私の想定以上に、2組の生徒は本当に頑張りました。今振り返ってみると、2年生での取り組みが後の結果につながったと思っています。

4 3年1学期での取り組み

3年生になり、1学期は何かと忙しい時期です。2組の生徒は運動部に所属している生徒も多かったのですが、最後の大会までは部活動に集中させました。好きでやっているスポーツですから、そちらを疎かにして勉強をやらせても効果はありません。完全燃焼して部活動の方でも結果を出した方が、その後の勉強にも間違いなく好影響です。事実、二回り目の担任の時に、茨城大学に合格した生徒や、一般入試を経て大学に合格した生徒は最後まで部活動をやり切りました。ただし、授業中は今まで以上に集中して全てを吸収するように、提出物等はきちんと出すように指導しました。そして、1学期に2回ある定期考査には早い段階から準備をさせました。3年生の1学期の評定は、就職希望者だけでなく推薦入試においてもかなり重要だからです。評定平均で0.1点の差が、推薦入試を、特に指定校推薦を勝ち抜くには大きな差になり、それがその後の人生に大きく関わるということを、ホームルームで何度も何度も話をしました。私の感覚では洗脳するくらいのつもりでした。その甲斐あってか、全員が過去最高の取り組みをしてくれました。3年1学期のクラス全体の評定平均は4.1で、一番高い者は4.9の評定平均でした。

また、個別面談も並行して行いました。具体的な進路希望の決定についてです。2年生の時の面談では、目標の意味合いも入っていましたが、ここでは現実的な進路です。1回の面談では決まらないことが多いので、各生徒と何度か面談の機会を持ちました。その結果を受けて、保護者とも話し合いを持ちました。保護者の支援がなければ、進学するのは難しいのが現状です。生徒・保護者の双方が納得する形で入試に向かえるよう心がけました。

5 夏休み ～ 3年2学期での取り組み

夏休みに入り、ほぼ全ての生徒が受験に集中できる状態になりました。推薦入試を目指す者も一般入試を目指す者も、夏休みは学力向上を第1の目標にさせました。課外授業には、自分の志望校の受験教科は最低限出るようにさせました。また、学年の取り組みで、家庭学習を充実させるための1つとして、「400時間ダービー」を行いました。質も大事だが量も大事だということです。

推薦入試希望者には、志望理由をまとめさせました。2学期から始まる面接指導の準備でもあり、今まで自分がやってきたことを整理させるという目的もありました。志望理由に関しては私が何度も添削をし、書き直しをさせました。生徒自身が何度も受験校のことを調べたり、高校時代に頑張ってきたことを振り返ることで、受験に真剣に向かうきっかけになったと思います。

2学期はいよいよ面接指導です。ここからは担任レベルでは指導しきれません。進路指導部、

学年の主導で、中央高校の全ての先生方において面接指導が始まりました。面接だけでなく、数学・物理の口頭試問、小論文の指導等、まさにオール中央体制でご指導いただきました。先生方のご指導のおかげで合格を勝ち取ることができました。

3 学年夏休み 400 時間ダービー

- 1 受験生の夏。学習量にこだわる。(質にもこだわる)
- 2 一日の学習時間全てを記述する。学習時間を見える形にする。
 - ・課外・塾・自主学習・模試・スキマ学習などすべて。
 - ・課外の時間と自主学習の時間が区別できるよう色分けして塗る。
- 3 期間：7月19日開始～9月1日までの45 days
- 4 達成者には全員に超豪華賞品
ダービー覇者には Amazing astounding wonderful 豪華賞品が授与されます。
- 5 達成のために
 - ・規則正しい生活をして、学習をルーティン化する。
 - ・自習室（3年1組・2組・AMの中央学習室・図書室）を積極活用する。
 - ・課外が始まる前の1時間。終わった後の1時間を自習室で
 - ・ライバルをつくる。仲間をつくる。自分に勝つ！



- ・小さいことを積み重ねることが、とんでもないところへたどり着くただひとつの道。
- ・この心あながちに切なるもの、とげずということなせなり。
(思いが強ければ、その思いは必ずかなう。) 蓮元
- ・Where there is a will, there is a way.
(意志あるところに道は開ける。)
- ・夢は正夢。
- ・夢は逃げない、逃げるのはいつも自分だ。
- ・努力した者が必ず成功するとは言えないが、成功した者は必ず努力している。
- ・負けて泣くより、勝って泣け。
- ・打たないシュートは、100パーセント外れる。
- ・自分になれる最も素晴らしい自分になるう。
- ・独立自尊（誇りを持ち、自分の力でやる）

6 終わりに

今回、原稿を書きながら、自分なりに特進クラスの取り組みについて顧みることができました。今までであれば、卒業生を出しても年度末の忙しさから、また、4月から始まる新しいクラスのことを考えてしまい、細かく振り返ることもなかったように思います。せっかくこのような機会をいただいたので、この反省を次のクラス運営に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

受験先					合 否
学校/就職先	学部	学科	コース	受 験 種 別	
土浦協同病院附属看護専門学校		看護学科		一 般 入 試	×
水戸看護福祉専門学校		看護学科		公 募 推 薦	○
中央医療技術専門学校		診療放射線学科		公 募 推 薦	○
つくば国際大学	医療保健学部	診療放射線学科		指 定 校 推 薦	○
茨城県立産業技術短期大学校併設水戸産業技術専門学院		建築システム科		一 般 入 試	○
常磐大学	看護学部	看護学科		指 定 校 推 薦	○
水戸メディカルカレッジ		看護学科		A O 入 試	×
水戸看護福祉専門学校		看護学科		一 般 入 試	○
水戸メディカルカレッジ		看護学科		一 般 入 試	×
水戸メディカルカレッジ		看護学科		A O 入 試	○
茨城キリスト教大学	看護学部	看護学科		A O 入 試	×
茨城北西看護専門学校				指 定 校 推 薦	○
茨城大学	工学部	電気電子システム工学科		公 募 推 薦	○
日本大学	工学部	情報工学科		公 募 推 薦	○
茨城キリスト教大学	生活科学部	心理福祉学科		A O 入 試	×
茨城キリスト教大学	生活科学部	心理福祉学科		公 募 推 薦	×
淑徳大学	総合福祉学部	社会福祉学科		指 定 校 推 薦	○
水戸日建工科専門学校		建築設計科		A O 入 試	○
土浦協同病院附属看護専門学校				指 定 校 推 薦	○
常磐大学	看護学部	看護学科		A O 入 試	×
中央学院大学	法学部	法学科		一 般 入 試	○
常磐大学	人間科学部	コミュニケーション学科		一 般 入 試	×
流通経済大学	流通情報学部	流通情報学科		一 般 入 試	×
流通経済大学	経済学部	経済学科		一 般 入 試	×
アール医療福祉専門学校		看護学科		一 般 入 試	○
常磐大学	看護学部	看護学科		卒 業 生 推 薦	×
茨城県立産業技術短期大学校		情報システム科		公 募 推 薦	○
土浦協同病院附属看護専門学校				指 定 校 推 薦	○
警視庁Ⅲ類				一 般 入 試	×
埼玉県警察官Ⅲ類				一 般 入 試	○
早稲田美容専門学校		美容科		A O 入 試	○
公立千歳科学技術大学	理工学部			A O 入 試	○
茨城県立産業技術短期大学校		情報処理科		公 募 推 薦	○
つくば国際大学	医療保健学部	理学療法学科		指 定 校 推 薦	○
秀明大学	学校教師学部	中等教育教員養成課程	理科専修コース	指 定 校 推 薦	○
日本大学	工学部	電気電子工学科		指 定 校 推 薦	○
つくば国際大学	医療保健学部	理学療法学科		A O 入 試	○
常磐大学	総合政策学部	法律行政学科		指 定 校 推 薦	○
水戸メディカルカレッジ		看護学科		指 定 校 推 薦	○
日本大学	生産工学部	機械工学科		指 定 校 推 薦	○
日本大学	生産工学部	土木工学科		指 定 校 推 薦	○
駒澤大学	グローバルメディアスタディーズ学部	グローバルメディア学科		A O 入 試	×
駒澤大学	経済学部	商学科		一 般 入 試	×
駒澤大学	グローバルメディアスタディーズ学部	グローバルメディア学科		一 般 入 試	×
駒澤大学	経営学部	経営学科		一 般 入 試	×
東洋大学	社会学部	メディアコミュニケーション学科		一 般 入 試	×
東洋大学	国際学部	国際地域学科 イブニングコース		一 般 入 試	○
茨城キリスト教大学	文学部	現代英語学科		セン ター 利用 入 試	○
二松学舎大学	国際政治経済学部			セン ター 利用 入 試	○
麗澤大学	国際学部	グローバルビジネス学科		セン ター 利用 入 試	○
流通経済大学	スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科		指 定 校 推 薦	○
つくば国際大学	医療保健学部	臨床検査学科		指 定 校 推 薦	○
水戸看護福祉専門学校		看護学科		指 定 校 推 薦	○
茨城北西看護専門学校				一 般 入 試	○
茨城キリスト教大学	看護学部	看護学科		A O 入 試	○
東京医科大学霞ヶ浦看護専門学校				指 定 校 推 薦	○
水戸メディカルカレッジ		看護学科		一 般 入 試	○
茨城キリスト教大学	看護学部	看護学科		A O 入 試	×
茨城キリスト教大学	看護学部	看護学科		公 募 推 薦	×
水戸看護福祉専門学校		看護学科		公 募 推 薦	○